

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部

発行：会長 田中勇次郎

東京都における作業療法の発展のために

謹んで新春の祝詞を申し上げます。旧年中も東京都作業療法士会への多大なご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

2022年は東京都からの新型コロナウイルス感染症施設内療養者に対する派遣や自治体からの通所型サービスC事業の委託など新たな依頼も増えた1年でした。皆さまの日頃のご活躍や士会活動へのご支援などもあって、司法やスポーツの分野も含めて年々東京都作業療法士会への依頼や相談には広がりが見られ、作業療法士への理解や活躍の場は徐々に様々な場面へと波及してきているように思います。

昨年の夏にはJリーグ百年構想クラブであるクリアソン新宿とも協働し、スタジアムで作業療法の支援を行う機会がありました。（詳しくは9月号ニュースをご参照ください。）インクルージョンやダイバーシティが重要視されている社会の中で、作業療法士もつながりの機会を待つだけでなく、自身の業界にとらわれず、多業種や多様な地域のコミュニティに自ら出向いていくことも大切なのだと気づかされました。個人的にはこうした思いから新宿歌舞伎町でのクリーン活動にも毎月参加するようになりました。多様な交流を図るにはまさに歌舞伎町はうってつけなところであり、人種も年齢も性別も職業も関係なく街のために何かをすることはとても多く

の刺激と学び、出会いがありました。

厚生労働省においては、世代や分野を超えてつながることで一人ひとりの暮ら

しと生きがい、地域をともに創っていく社会として「地域共生社会」の実現が推進されているところです。2022年を振り返り、作業療法士が目指す「地域共生社会」を考える上では、いままでに接点のなかった地域の人々ともかかわることが、より作業療法を身近に感じられる社会に近づけるのではないかと実感しています。コロナ禍によるつながりの分断を再構築する意味でも東京都だからこそ公私において多様な人たちとの出会いを大事にしてみると良いのではないかと考えています。その出会いが地域のために、東京都で人々が豊かに暮らしていくために何ができるのか、作業療法士を考えさせ、これから未来の作業療法を発展させてくれるカギになるのだと感じています。

2023年はどのような年になるのか、皆さまのお力添えをいただきながらにはなりますが、私自身も都民や会員の皆さまのために寄与できることを率先躬行に尽くしてまいりたいと思っています。



事務局長
中里 武史

CONTENTS

- ◆ 東京都における作業療法の発展のために…①
- ◆ 第19回東京都作業療法学会開催について…②
- ◆ 子ども委員会活動報告…③
- ◆ 地域づくり人材育成研修（仮）認定コースと地域づくりサポーター制度（仮）のお知らせ…④
- ◆ 令和4年度東京都地域リハビリテーション専門人材育成研修報告…⑤
- ◆ 認知症の人と家族の生活支援委員会 活動報告～東京新聞ヘルスケアメイツ事業に参加して～…⑥
- ◆ 認知症にやさしい本の紹介 Vol.36…⑥
- ◆ 保険部 Letter…⑦

- ◆ 「生活行為工夫情報事業を活用した説明会」のご案内…⑦
- ◆ 自動車運転と移動支援対策委員会 移動支援研修会のご案内…⑧
- ◆ 就労支援委員会活動報告…⑧
- ◆ 2022年度災害時を想定したシミュレーション訓練の実施報告…⑨
- ◆ ブロック活動のお知らせ…⑩
- ◆ 事業部活動報告 研修開催報告及びアーカイブ配信のお知らせ…⑫
- ◆ 教育部研修会情報…⑫
- ◆ 編集後記…⑫

第19回東京都作業療法学会開催について

学会実行委員 広報担当 NTT関東病院 森田 将健

No.207の都士会ニュースでも周知されましたが8月に実行委員が発足し、徐々に都学会の形が出来上がってきました。テーマが「“face to face” ～作業で結ぶ東京の未来～」に決定され、COVID-19の影響により対面での学会や研修会が開催できなかった状況からの脱出による対面開催の意味と、COVID-19以前と今後の環境変化や困難と向き合う二つの意味を込めて採択されました。

また、会場は最終決定に至っていませんが、順天堂大学や東京都立大学荒川キャンパス、東京工科大学、医科歯科大学などいくつかの候補に絞り込み、都士会員にとってアクセスのよい場所で開催できるように検討しています。

学会長の順天堂大学病院の阿瀬先生、実行委員長の荏原病院の大村先生と実行委員の意見をくみ取り、集約しながらも引っ張っていただける方々がいるおかげでとてもやりやすく、実行委員会議でも忌憚のない意見、議論ができています。またアプリ上（Medicall Care Station）で質問や相談、急ぎの案件などを常にやり取りしているため今回初めて実行委員となり、事務局、企画、査読、会場運営、広報の5部門のとりまとめを任された医科歯科大学病院の山本先生、聖路加国際病院の阿部（幸）先生、蒲田リハビリテーション病院の松本先生、たいとう診療所の阿部（元）先生とそして私としては大きな支えになっています。任された当初は、学生時代の初実習のような何とも言えない不安と緊張がありましたが、学会長、実行委員長のリーダーシップと存在感、アプリの利用によるグループ化と、誰かが相談に乗ってくれる安心感、支えというのは斯くも大きなものだったのかと改めて実感しながら、日々各分担での役割を進めています。

ありがたいことに前都学会実行委員長の栗沢先生をはじめ、前都学会事務局長の大貫先生、都士会学術部の先生方にもアドバイザーとして実行委員会議に出席していただき、その場で疑問が解決する場面も多々あり、プラスαで助言もいただけるため、『わからない事だらけでもなんとかやっていけている』というのが実感です。

区中央部・南部・島しょブロックの所属区は港区、千代田区、文京区、台東区、中央区、品川区、大田区、島しょ部と行政の中心や高級住宅地、文教地区から、大規模商業地や庶民的な下町、生活困窮者の集う地区など多種多様な環境にあり、同じ区のブロック委員の中でも対象患者層が大きく異なります。そんな多種多様なブロック内の各施設の特色に合わせ、過去には学生との交流を兼ねた研修会の開催や、OTの臨床やその他の業務に使えるICTの研修会、就労や社会復帰に向けた研修会、臨床に出ているスタッフから見る急性期や回復期の病院見学などを開催してきました。

そのため今回の都学会もできる限り当ブロックの特色を活かした形での開催が望ましいというのが実行委員

の共通認識でもあります。テーマが決まったことで、今後徐々に学会長講演や特別企画、特別講演など内容が形作られてくると思います。アンケートにより若年層の意見を聴取し、オブザーバー参加を求め経験を積んでもらえるように企画する案や、大学病院や急性期病院が多い地域の特徴から、様々な病院をめぐる患者をどのように受け入れ、情報を共有すればよいのかネットワークを作れるような企画を作りたいなど12月現在でもいろいろな意見が出ています。

今後も、開催までの短い期間でポスターの公募や演題の公募、企画の公募など都士会員の皆様にはいろいろな周知やお願いをすることが多くなると思いますが、少しでも参加していただいた都士会員の皆様に「面白かった」「参考になった」「臨床に活かそう」「違う視点が身についた」など前向きな意見をいただけるような都学会を開催できるように、実行委員一丸となって考え、形にしていこうと思っています。身障領域、精神科領域などに囚われずにいろいろな分野、年代のOTの思いを形にできるように皆様からの意見を賜り、ご協力していただければ幸いです。

また、都学会のポスターについても以下のアドレスで継続して募集中ですので、患者様の書いた絵やカラージュ、自分で作成した画像など募集要項を確認の上、奮ってご応募ください。

都学会用メールアドレス：tokyo.ot.congress@gmail.com

子ども委員会活動報告

担当理事・東京都立大学 伊藤 祐子

子ども委員会では、2022年度の活動として、7月に第18回東京都作業療法学会での教育部との共同企画シンポジウム「発達OTのいまとこれから」、10月に特別支援教育関連の「学校×作業療法 ～外部専門家連携の実際～」研修会を実施した。各回の参加者アンケートでは、子ども委員会の今後の企画についても様々な要望を頂いた。都士会学会企画に関しては、「有益な学びの場になった」という多くのお声をいただいた半面、「時間が足りなかった、もっと深く聞きたかった」「発達領域のOTが増えない、研究発表も少ないことに関する危機感を感じた」といった回答もあった。学校×OT研修会では、「一人でも多くの子どもの参加を支援するために、学校でのOTが増えていくことを期待している」といった子どもの参加に対するOTの役割について考える機会になったという回答があった一方で、「今後学校で作業療法士がどのように個性を重視した関わりを実践していくのか」というより具体的な情報提供や学びの機会のニーズも明らかになった。

今年度中に、もうひとつ子ども委員会主催の研修会を企画している。テーマは、これまでのアンケートでいただいたご意見を参考に検討中であり、時期は2月または3月の週末を予定している。テーマと日程が決まり次第、ホームページやFB、LINE、Twitterなどでお知らせするのでぜひご参加をご検討いただきたい。

地域づくり人材育成研修（仮）認定コースと地域づくりサポーター制度（仮）のお知らせ

地域包括ケア対策委員会 委員長 金澤 均

東京都作業療法士会地域包括ケア対策委員会では、委員会発足当時より地域での活動を支援すべく、様々な研修を企画運営するとともに、東京都理学療法士協会、東京都言語聴覚士会と協働し、地域リハビリテーション専門人材育成研修を行って参りました。

これは世界でも例を見ないスピードで高齢化が進行する日本で、東京はこれから超高齢社会の現実に直面します。東京都において地域に貢献できるリハ専門職の育成が必要であり、そのための人材育成に取り組んでまいりました。各地域での新しい総合事業が始まるにつれ、少しずつ介護予防事業や地域支援事業に参画するリハ専門職も増えてきました。

この地域支援事業に資するリハ専門職の中でも「生活行為の専門家」である作業療法士の専門性は、日本の超高齢社会の様々な課題解決にとって重要なスキルの1つです。既に地域で活躍する作業療法士達の実践によって、「作業療法は地域が抱える様々な課題解決にとって役に立つ」ということが少しずつですが広まってきていると感じます。

そこで「都内全地域で地域における作業療法実践を推進する～会員が自信と誇りをもって地域での作業療法を展開できる～」という目標を掲げ、「地域づくり人材育成研修（仮称）認定コース」の創設、「地域づくりサポーター制度（仮称）」を構築することにいたしました。これは、若手からベテランまでOT全世代型の人材育成と地域支援体制の構築、そして地域での作業療法の実践を支援することを目的とします。具体的には「人材の育成」「作業療法の実践」「実践の共有」を研修事業とサポーター制度を通じて、地域支援体制を包括的に構築して参りたいと考えております。

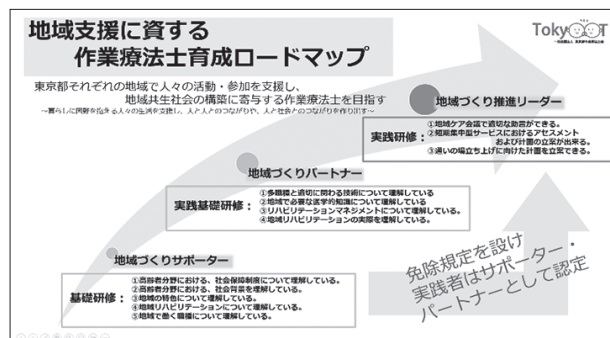
人材育成研修については、①基礎研修、②応用基礎研修、③応用研修の三部構成とし、それぞれ1日研修を予定しております。①基礎研修は2023年2月4日の開催に向けて調整中です。基礎編はこれから踏み出すスタートアップとしての研修ですので、若手からベテランまで、幅広くご受講いただける内容で企画しております。

受講終了者は地域づくりサポーター、地域づくりパートナー、地域づくり推進リーダーとし、地域を支援する基盤を強化していきたいと考えております。また既に他の類似する研修受講者や地域支援事業実践者の皆様に関しては、研修受講免除規定を設ける予定です。該当される方々には研修受講を免除し、地域づくりサポーターとして随時認定させていただきたいと考えております。

まだ詳細部分はこれから作り上げていく段階でございます。今後随時情報を配信していく予定でございますの

で、東京全地域に作業療法を届ける活動を都士会員全体で盛り上げて頂きたいと思います。どうかご協力のほどよろしくお願いいたします。

お問い合わせは地域包括ケア対策委員会まで：chiikihoukatsu.tokyo@gmail.com



令和4年度東京都地域リハビリテーション 専門人材育成研修報告

山王リハビリ・クリニック 南菜 純

2022年10月15日、東京都の後援を受け、東京都作業療法士会、東京都理学療法士協会、東京都言語聴覚士会の合同で東京都地域リハビリテーション専門人材育成研修を実施しました。この研修会は新型コロナウイルス感染症の流行を受け、半日研修に縮小して行ってきました。今年度は一日研修でグループに分かれて地域ケア個別会議の模擬会議演習まで実施出来ました。

私は今回ファシリテーターとして参加させていただきました。事例に対して意見を出し合い、ICFに沿った課題分析を行いました。参加者の皆様の活躍されている地域によって異なる地域資源の紹介や、急性期～生活期と様々な立場で働く皆様から、様々な意見をお聞きすることができました。地域ケア会議では事例に対する個別課題の解決から、地域課題の発見や地域づくりの開発機能も求められます。地域や職種の違いに捉われず実際の地域活動の中でも、たくさんの意見交換ができる環境を作っていきたいと思いました。当委員会ではこれからも研修会を企画しています。ぜひ、ご興味がありましたらご参加ください。

東京都作業療法士会包括ケア対策委員会では東京都内の地域支援事業参画状況のアンケート調査中です。全会員が対象ですので、皆様ご回答のほどご協力をよろしくお願いいたします。(回答期限2023年1月22日)



認知症の人と家族の生活支援委員会 活動報告 ～東京新聞ヘルスケアメイツ事業に参加して～

認知症の人と家族の生活支援委員会 担当理事・委員長 山下 高介

当委員会は、11月27日に東京新聞ヘルスケアメイツ事業に参加しました。本事業は、東京新聞による地域の介護予防を目的とした取り組みの一環です。

今回は、その中で回想法プログラムを担当させていただきました。回想法は、作業療法士に馴染みが深いですが、今回の回想法は一味違いました。何が違うかと言いますと、題材とする物です。なんと！今回は東京新聞の過去紙面で回想法を行ったのです。新聞は、確かに身近な物ですが文字情報や白黒印刷、過去紙面を用意する難しさから、あまり回想法の題材としては活用されないのではないのでしょうか？今回のプログラムに参加したスタッフも、新聞を用いた回想法の経験はなく、少し不安がありました。しかし、大変盛り上がる結果となりました!!!スタッフ一同、満足のプログラム運営ができました。

また、新聞を用いた回想法についてもいろいろ学びがありました。それは、一面に多くの記事があるため、話題が拡散する恐れはありましたが、それ自体が新聞を用いる魅力だと感じました。導入にはスタッフの案内が必要でしたが、一度思い出を語りだすと、みなさんわれ先にと語っていました。上手くまとめようとせずに、好きなことを語ってもらう大切さを改めて感じました！

コロナ禍になり都民の皆様と関わる活動が減りましたが、このような活動を少しずつ増やせていけたらと思います！

認知症にやさしい本の紹介 Vol.36

川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

まんがでわかる認知症～

内門大丈／監修 吉田美紀子／マンガ

先日、知人の認知症当事者の方から「この本はわかりやすくいい」とお聞きし、購入し、目を通すと「なるほど!」と思った一冊です。従来、一般書として医療の棚にある認知症に関する本とは異なり、家族向けの本としてとても有効であるように思う。認知症になった時ではなく、認知症になる前に目を通しておいてもよいのではないかと思う箇所もある。ストーリー仕立ての「まんが」から理解しやすく読み取ることができる。平易な言葉を使い、誰もが理解できるような配慮を何うことができ、とても親しみを感じる。また、まんがは子どもと一緒に読み、解説の文面は大人が説明するという活用ができる。

第2章は『認知症の人の行動の謎を解く～「何度も同じことを聞く」、「財布を盗まれたと言う」など、認知症の人によく見られる症状について取り扱っている。この章では、その裏にある認知症の人の気持ちを解説します。』とある。様々な行動の裏側にあることが何なのかを確認することができる。実際に図書館の中で起こったことなどをすり合わせながら読み進めると、そうだったのかと納得することが多々あった。そしてケース事例のページ最後にある「対応のポイント」がとても役立つ。認知症サポーター養成講座を受けた後に、さらに理解を深めることができる。一方でこのような行動パターンの基礎知識として知りつつ、画一的なものではない、その人それぞれの性格がある対応も忘れる事がないようにしたい。

保険部 Letter インクルーシブ教育について

保険部 住田多恵子

＜インクルーシブ教育システムとは＞

障害の有無に関わらず、すべての子どもが可能な限り同じ場で学ぶ事で多用性を認め合うと共に、特別な支援が必要な子ども一人一人の実態に応じた適切な学習環境の用意や支援を行うことの出来る多様で柔軟な仕組みの事です。文部科学省のHPでは共生社会の形成に向けて以下の様に記されています。

- ・障害者の権利に関する条約第24条によれば「インクルーシブ教育システム」とは人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加する事を可能とするとの目的の下、障害のあるものと障害のないものが共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が教育制度一般から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される事が必要とされている。
- ・インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追及するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校と言った、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要である。

出典：

文部科学省ホームページ：共生社会の形成に向けて

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1325884.htm

千葉県佐倉市公式ウェブサイト：「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」リーフレット

<https://www.city.sakura.lg.jp/material/files/group/62/H26inclusive.pdf>

「生活行為工夫情報事業を活用した説明会」のご案内

この度、生活行為工夫情報事業の東部ブロックに参加している都道府県士会の皆様の協力により、モデルケースとなる登録事例をご紹介頂く研修会を企画しました。

日々の支援のヒントや、生活行為工夫情報事業に参加していただくきっかけとなれば幸いです。多数の皆様の参加をお待ちしています。

対象：作業療法士協会会員かつ当事業の参加士会の会員
(北海道・新潟・福島・茨城・栃木・東京都・神奈川)

参加費：無 料 基礎ポイントなし

定 員：80名(先着順) オンデマンド配信も行います

開 催 日：2023年2月10日(金) 19時30分～21時00分(受付開始19時15分)

研修方法：ZOOM

申込方法：下記のQRコードもしくはURLよりお申込み下さい

申込期限：2023年2月3日(金)

URL：<https://forms.gle/MSNV1pWAAVWJABJv9>

【問い合わせ先】

Mail：tokyo.ot.yougu@gmail.com

*を@に変えて送信して下さい。



「自動車運転と移動支援対策委員会 移動支援研修会のご案内」

自動車運転と移動支援対策委員会委員 リハラボ訪問看護リハビリステーション町田 永島 匡

今回は当委員会で3月11日（土）に主催する、移動支援の研修会についてご案内します。

当委員会では毎年2回の研修会を企画しておりますが、今年度は運転支援と移動支援に関する研修会を委員会で2チームに分かれ企画して参りました。その中で移動支援に関する会として、車いすで世界一周を達成し、現在も様々な地域や国のバリアフリー事情を脊髄損傷の当事者の立場で紹介されている、車いすトラベラーの三代達也氏を講師としてお招きし、地域や拠点までの移動、車いすでの電車や飛行機の利用等、移動と作業についての講演を行って頂きます。

さらに地域でバリアフリーマップ作り等の活動を行う脳卒中当事者で車いすユーザーの渡邊康次氏にもお話を頂き、後半は東京都作業療法士会福祉用具部様とのコラボで、電動車いすを扱う業者の方々をお招きし、会場外にコースを設け、電動車いすの体験会を行う盛り沢山の内容となっております。

会場は墨田区にある八広はなみずき地域包括支援センター様に共催を頂き会場をお借りし、対面とオンラインでのハイブリッド開催の予定となっております。

日々関わるクライアントへの支援の中で、クライアントが「行きたいところに行く」という思いを実現するために、どのような課題や悩みを抱えており、作業療法士が共にその課題を解決し乗り越えていくためにどうしたらよいか、考えるきっかけとなる研修会に出来ればと思います。是非とも奮ってご参加下さい。

就労支援委員会活動報告

第3回オンライン就労支援事例検討会のご報告と2月就労支援委員会主催研修会について

就労支援委員会 松本 直之

今年度、就労支援委員会では、「オンライン 就労支援事例検討会」を開催しています。この企画は、昨年開催させていただいた「オンライン就労支援相談会」を発展させたもので、事例検討を通して会員の皆さんの就労支援に関する知識の向上やスキルアップを目的とした就労支援委員会主催のイベントです。先日12月7日（水）に3回目を開催し、7名の方にご参加いただきました。当日は、就労支援委員会のメンバーが事例をあげ、委員会のメンバーで検討を行う様子を参加者の皆さんにお聴きいただきました。就労支援の実態について少しでも感じていただく機会になっていたら嬉しいです。また、事例検討終了後には、就労支援に関する質問を受ける時間を設け、日々の困りごとや疑問について、一緒に考える時間を持つことができました。ご参加いただいたみなさんだけでなく、就労支援委員のメンバーも多くの学びを得る機会となりました。ご参加いただいたみなさん、ありがとうございました。

さて、就労支援委員会では2月に研修会を企画しています。内容は、就労支援における評価の視点や考え方、ポイントなどを紹介し、明日からの実践に活かしていただけるような内容を予定しています。日時は、令和4年2月23日（木・祝）13：00～15：30、オンラインで開催の予定です。詳細は、チラシをご確認下さい！皆様のご参加お待ちしております。

2022年度災害時を想定したシミュレーション訓練の実施報告

都士会災害対策担当（保険部担当理事） 松岡 耕史

災害時を想定したシミュレーション訓練の実施

年に1回、全国の都道府県作業療法士会が一斉に災害発生を想定してそれぞれの士会員の安否を確認する災害時シミュレーション訓練を実施しています。2022年度は9月25日から10月末においてシミュレーション訓練が行われ、東京都作業療法士会では以下の方法で会員の安否を確認しました。

- ①都士会Faxの配信（東京都内の作業療法士が在籍している施設・病院へ都士会Faxを送信）
- ②ブロックと連携した連絡（各ブロックの災害対策の担当者を中心にブロック内で連絡）
- ③災害時連絡用メールの配信（災害時連絡用メールに登録している会員へ個別に連絡）

訓練結果（カッコ内は昨年度）

＜安否が確認できた会員数＞

1332名／2284名58.3%（47.9%）

＜ブロック別実施率＞

区東部・東北部：74.4%（66.1%）

区中央部・南部・島しょ部：56.9%（67.1%）

区西北部：46.1%（49.4%）

区西部・西南部：54.7%（45.7%）

北多摩：48.3%（43.2%）

西多摩・南多摩：64.7%（54.8%）

昨年度の災害時を想定したシミュレーション訓練では、全体で安否確認ができた会員は47.9%でしたので少しずつ訓練の参加人数・割合が増えています。各ブロックにおける災害対策担当者を中心にブロック内での連携をさらに強化すると共に、災害時連絡用メールを整備して登録している都士会員へ個別に連絡できる体制を作っていきます。

実際に東京都で大規模災害が発生した場合

東京都で大規模災害が発生した場合は、日本作業療法士協会やJRAT（日本災害リハビリテーション支援協会）、東京都理学療法士協会、東京都言語聴覚士会、各地域リハビリテーション支援センターなどの関連団体と連携して、必要に応じて病院、施設、避難所等へ杖や簡易手すりなどの物的支援、およびリハビリテーション専門職の派遣など人的な支援を行います。それらの支援を行うにあたり、今回実施したシミュレーション訓練と同様の方法で会員の皆様の安否に加えて被災状況の確認を行っていきます。

災害時連絡用メールへのご登録

災害時の連絡用メールアドレスに登録された会員の皆様へ、シミュレーション訓練や実際の災害時にメールをお送り致します。ご希望の方は下記URLまたはQRコードにアクセスしてご登録頂きますようお願い申し上げます。

<https://forms.gle/DtXz2q1KsUKNAc3P6>



ご連絡・お問い合わせ先：tokyootsaigaitaisaku@gmail.com（災害対策担当：松岡）

ブロック活動のお知らせ

北多摩ブロック（武蔵野市、三鷹市、調布市、狛江市、小金井市、府中市、清瀬市、東久留米市、西東京市、東村山市、小平市、国分寺市、国立市、立川市、昭島市、東大和市、武蔵村山市）

浅野 智貴

新年あけましておめでとうございます。北多摩ブロックでは、Team勉強会とTeam広報を構成し、会議を行なっています。Team勉強会では、1月26日に年4回開催予定の「ツドイノバ」の4回目を、領域を越えた情報共有や意見交換などを目的に実施予定です。また、3月のMTDLP基礎研修会の開催に向け準備を行なっています。Team広報では、Slackというアプリを利用した北多摩OTチャンネル「ツナガルバ」の活性化とその活用方法について話し合っています。領域や職域の枠を超えた情報共有や交流の場となることを目的にしています。OTひとり職場や職場内で悩んでいる方、ぜひツドイノバを大いに活用してみませんか。また、北多摩ブロックでは、会議を通して北多摩ブロックを盛り上げてくださる方を募集しています。他領域のOTとの交流は、視野が広がる良い機会です。ぜひ参加してみてください。メールアドレス:ot.kitatama@gmail.comまでご連絡ください。

西多摩・南多摩ブロック（瑞穂町、福生市、羽村市、あきる野市、青梅市、日の出町、奥多摩町、桧原村、八王子市、日野市、多摩市、稲城市、町田市）

今泉 幸子

西多摩・南多摩ブロックは、今年度のまとめ企画として「私たちの都学会～3つのC（Change、Chance、Challenge）を振り返る&交流会」と題して都学会を振り返りつつ味わう学びと交流の企画を2/16（木）の夜に開催いたします。詳しくは都士会HPに掲載しています。どうぞ奮ってご参加ください！来年度は新たな気持ちで新鮮な活動を精力的に行っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします！

☆ブロック活動へのご意見・ご要望・ご質問はこちらまで ⇒ swtamaot@gmail.com

区西部西南部ブロック（練馬区、板橋区、北区、豊島区）

野村 哲朗

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。西部西南部ブロックでは2月26日(日)に行われる認知症アップデート研修会を企画・準備中です。詳細やお申し込みは都士会ホームページ、FAX通信等をご利用ください。

当ブロックで私が担当させて頂いている杉並区では、平成28年から介護予防・生活支援サービス事業のサービスC（短期集中予防サービス）を開始しています。地域包括支援センターが対象者のケアプランを作成し当区主催の「介護予防ケアマネジメント支援会議」にて利用希望者全員のケース検討を行っています。参加者は区職員（OT含む）等、行政職員のみならず区内で働くリハ職の方々も出席しています。OTの得意な視点や思考がダイレクトに地域に伝わりますし会議参加者からは勇気を持って発言したことが役に立ち自信になったという意見もあり区全体を盛り上げる事業だと感じています。現在も支援会議に参加できる区内在勤のOTを募集しています。また併せてブロックで活動する杉並の仲間も探しています。ご興味のある方は西部西南部ブロックまでお問い合わせ下さい。

是非！ seibuseinanbu.ot@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック（港区、千代田区、文京区、台東区、中央区、品川区、大田区、島しょ部）**森田 将健**

当ブロックが次期都学会を開催することが決まってから、「お手伝いができないか」と参加される方が数名参加してくださっています。今までブロック運営委員が不在だった区からも参加してくださり、ブロックの運営も広がりが見えてきました。

ほとんどのブロック運営委員にとって学会運営が初めての経験となり、わからないことだらけではありますが、都士会運営委員の方々や、学会運営の経験のある方々から助言を頂きながら「どうしたら中央南部らしい学会」の開催ができるか相談を繰り返しています。当ブロックでICTの勉強会などを数回行ってきましたが、今回の学会を機に実行委員の間で連絡、共有ツールとして使用し始めると「便利になった」「手間が減った」と思う反面、「時代に置いて行かれないように」と焦りながら使用しています。

若手に多く参加してほしいと都学会を検討していますが、中堅以上の学会員にも多く参加していただき、今若手が思っていることをくみ取り、お互いをつなげることができるツールのようになれればと思っています。経験年数を問わず、ブロック活動に興味を持っていただいている方はご連絡ください。つながりを持つことで更に自分の世界が広がり、同じ思いを共有する人との出会いがあるかもしれません。

連絡先：ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

区東部東北部ブロック（墨田区、江戸川区、江東区、足立区、葛飾区、荒川区）**小宮 優太**

現在区東部・東北部ブロックでは、コミュニケーションの基本と実践を学ぶことのできる研修会を2023年2月24日に企画しています。2時間という短い時間ではありますが、グループワークを取り入れながら有意義な時間にしていけたらと思っています。詳細は都士会のホームページに記載がございますので、興味のある方はぜひご確認ください。また、私自身新型コロナウイルスが流行し始めた2020年に免許を取得したということもあり、入職してから現在に至るまで、他の施設や病院で働く方達との交流を持ちながら作業療法士としての知識や技術を身につけることが難しい状況でした。そんななか2022年6月よりブロック委員に所属したことで交流の機会が増え、ブロックでの活動や都士会主催の研修会が日々の臨床に繋がる情報共有や学びの場となっています。新型コロナウイルスの終息がみえない今、私と同じ様な思いをされている方達が不安なく臨床に参加できるような研修会を今後も企画できるよう努めて参ります。

区西北部ブロック（新宿区、中野区、杉並区、目黒区、渋谷区、世田谷区）**山下 高介**

当ブロックでは、12月9日に就労支援に関する研修会を実施しました。華金ではありましたが、23名の参加者が集まり多いに盛り上がりました。

本研修会では、身体障害領域だけでなく精神障害領域の就労支援についても取り扱いました。参加された皆様からも、幅広く就労に関する話が聞けたことが良かったという感想をいただきました。これからも、ブロックの特色が出せるような活動をしてきたいと思います！

事業部活動報告 研修開催報告及びアーカイブ配信のお知らせ

事業部 谷口 明里

11月26日に、『パラスポーツを知ろう！～パラスポーツをクライアントの「活動」と「参加」につなげるためにできることは？～』という研修会を開催いたしました。

前半は、「パラスポーツ総論」について、公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 スポーツ振興部 地域スポーツ振興課 課長 佐々木ゆみ様にご講義いただき、パラスポーツが生まれた歴史や、障害のある方がスポーツに取り組むことで得られる心身への効果、社会参加の増大と自信の回復などについてお話をしました。

後半は、東京北卓球バレー同好会 サポーター 作業療法士 北山真樹様に、パラスポーツへ関わるきっかけや、その魅力を教えて頂きました。同好会の代表で、障害当事者でもある福田様の名言がいくつも飛び出す、心に響く講義でした。

パラスポーツについて興味はあるけども何から学べばいいかわからなかった参加者の方も多く、今回の研修を通じて「楽しく学べた」と好評いただきました。また、都内の養成校の学生も参加してくれ、パラスポーツに興味を持つ若い世代の今後の活躍が期待されました。

今回の研修は、都士会会員限定で、YouTubeにてアーカイブ配信されますのでぜひご覧ください！

視聴の流れ：tokyo.ot.jigyoubu@gmail.comへ件名「動画視聴希望」として①氏名 ②協会会員番号を記載してメールを送る → 会員情報を確認後に動画URLの載っているページのURLとパスワードをお伝えいたします。

教育部研修会情報

基礎ポイント研修（発達障害領域）

2023年2月23日開催予定：チーム教育で活かす作業療法—読み書きが困難な子どもへの支援—（藍野大学医療保健学部作業療法学科 高畑脩平先生）

基礎ポイント研修（精神障害領域）

2023年1月～3月に準備中：作業療法によるアルコール依存症支援（仮題）

詳細は東京都作業療法士会ホームページにてご確認ください。

追悼文

2022年12月17日 東京都作業療法士会 名誉会員である山下治男先生が逝去されました。自衛隊中央病院のインターン実習で、「自由にやりなさい、責任は自分がとるから」と言われ、のびのびと実習させて頂けたこと、夏休みをやるからお盆休み中は一人で患者さん方を担当するように言われ、やり切ったことなど、今では考えられないような実習でしたが、すごく自信がついたことが思い出されます。ご生前のご厚情に深く感謝するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

東京都作業療法士会 会長 田中勇次郎

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL：03-6380-4681 FAX：03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。